

枚方市商工だより

(2013年7月)

[主な内容]

地域経済動向調査 VOL-95 (2013年4~6月)

枚方市

【調査の概要】

本調査は、枚方市の委託事業として北大阪商工会議所が実施しているもので、地域経済の総合的な動向を把握することで、産業振興のための基礎資料として利用するとともに、地域の経営者等へ情報提供している。

調査対象は、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、市内の主要な産業を網羅している。

企業規模は、製造業は全数を、その他の業種は、従業者規模5人以上の事業所から無作為抽出している。

調査方法は、往復はがきによるアンケート方式で、2013年7月上旬に876社に発送し、回答期限までに212社から回答が得られた。

全体の回答率は24.2%で、業種別・規模別回答状況は、表1、表2の通りである。

表1. 業種別回答状況

集約業種名		母集団	回答数	回答率
製造業	食料・飲料	21	7	33.3
	繊維・衣服	53	7	13.2
	木材・家具	13	1	7.7
	紙・出版・印刷	31	8	25.8
	化学・プラスチック	50	17	34.0
	鉄鋼・非鉄金属	27	8	29.6
	金属製品	58	17	29.3
	一般機械	61	15	24.6
	電気機械	33	7	21.2
	その他の製造業	37	11	29.7
製造業計		384	98	25.5
非製造業	建設業	100	31	31.0
	卸売業	54	11	20.4
	小売業	160	37	23.1
	飲食店	63	9	14.3
	サービス業	115	26	22.6
	非製造業計		492	114
合計		876	212	24.2

表2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率
1～3人	76	14	18.4	—	—	—	76	14	18.4
4～9人*	88	25	28.4	242	45	18.6	330	70	21.2
10～19人	69	22	31.9	129	36	27.9	198	58	29.3
20～29人	26	5	19.2	53	12	22.6	79	17	21.5
30～49人	37	9	24.3	34	8	23.5	71	17	23.9
50～99人	34	11	32.4	19	6	31.6	53	17	32.1
100～199人	35	9	25.7	11	3	27.3	46	12	26.1
200～299人	6	1	16.7	3	3	100.0	9	4	44.4
300人以上	13	2	15.4	1	1	100.0	14	3	21.4
合計	384	98	25.5	492	114	23.2	876	212	24.2

*) 非製造業の規模4～9人は5～9人である。

【概要】

国内の景気は、着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもみられる。

先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

政府は7月の月例経済報告で、景気の基調判断を「景気は着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもみられる。」としている。輸出は「持ち直しの動きがみられる。生産は、緩やかに増加している。」としている。企業の業況判断は、改善している。雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善している。個人消費は、持ち直している。物価の動向を総合してみると、デフレ状況は緩和しつつある。

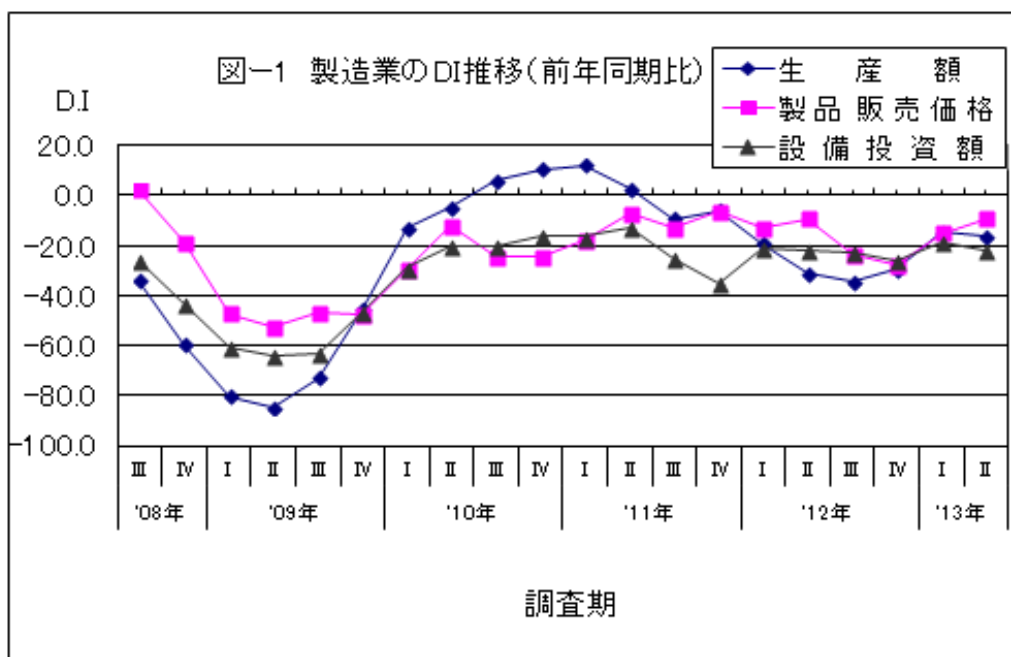
完全失業率は、5月は前月と同水準の4.1%となった。また、15～24歳層の完全失業率は、前月比1.0%P低下し、7.1%となった。

帝国データバンクによると、平成25年7月の倒産件数は952件で、前月比は5.1%、前年同月比も1.0%の増加となり、2ヶ月連続で前年同月を上回った。倒産件数のうち、不況型の倒産は791件である。構成比は83.1%で、前月と比べると3.4P上回ったものの、5ヶ月連続で前年同月を下回った。負債額別にみると、負債5,000万円未満の倒産は517件で、前年同月比5.9%の増加となり、構成比は54.3%と9ヶ月連続で過半数を占めた。地域別では、9地域中3地域で前年同月を上回った。なかでも、東北地域は前年同月比30%超の大幅増加となった。一方、四国地域は前年同月比20%超の大幅減少となった。景気D.Iは前月比1.1P増の43.6となり、2ヶ月ぶりに改善した。「金融円滑化法利用後倒産」は52件判明。前月比15.6%の増加となるとともに、前年同月比では26.8%の大幅そうかを記録し、32ヶ月連続で前年同月比増加となった。

金融が、好転し銀行貸出が増えたとしても、「新陳代謝」の名のもとに、中小零細企業は、淘汰される可能性が高い。また、円安に伴う輸入価格上昇や原燃料高、労務費高等などといった倒産増加要因は依然として存在しており、こうした背景から、2013年下半期の企業倒産件数は、緩やかに増加していくと見込まれる。

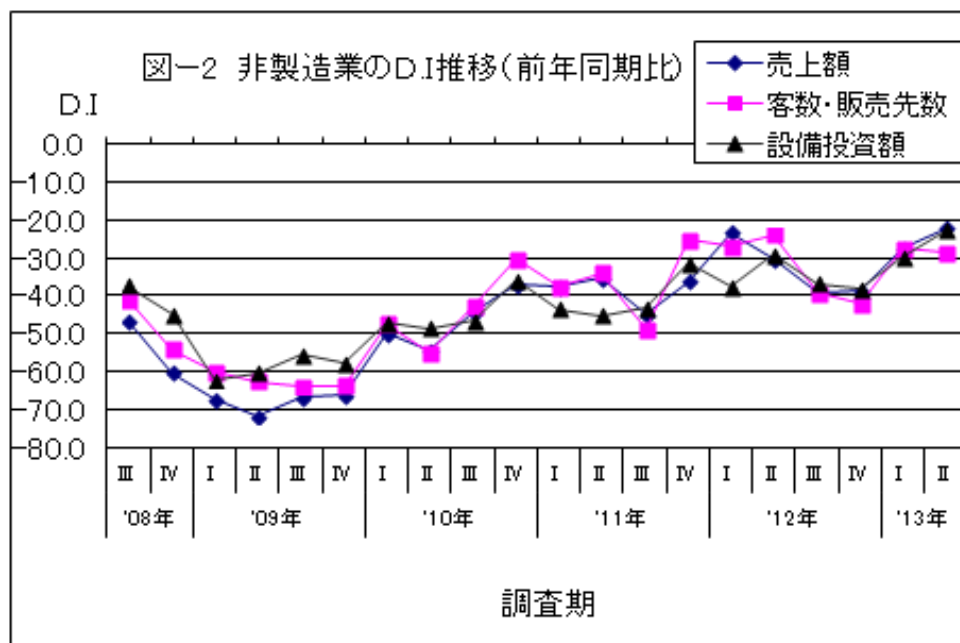
(注) 景気動向指標 (D. I = Diffusion Index)

= (増加・好転した企業の割合) - (減少・悪化した企業の割合)



2013年第2四半期(4~6月)の枚方市の、前期と比較した製造業の生産額、出荷額は、いずれもD.Iのマイナス幅が縮小している。製品在庫額は、適正企業が多くを占めている。向こう3ヵ月の景況感は、前期に引き続き改善がみられる。

前年同期比では、生産額、設備投資額は、D.Iのマイナス幅が拡大している。製品販売価格は、D.Iのマイナス幅が縮小している。



非製造業の、前期と比較した売上額、資金繰りは、いずれもあまり変化がない。向こう3ヶ月の景況は、前期に引き続き改善がみられる。

前年同期と比較した売上額、設備投資額のD.Iは、いずれも前期に引き続き改善がみられる。

表3 総括表(DIの推移)

景気動向指標		'07年		'08年				'09年				'10年		
		Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	
製 造 業	前期 比	生産額	-17.4	-1.1	-26.9	-33.6	-33.0	-56.1	-70.8	-55.7	-27.8	-20.4	-21.0	-5.1
		出荷額	-16.5	-1.1	-22.8	-28.0	-35.4	-58.8	-68.1	-58.5	-30.8	-19.6	-18.3	-5.0
		製品在庫額	-12.8	-6.0	-12.5	-14.3	-9.7	-27.5	-23.3	-21.8	-19.6	-11.0	-17.0	-5.3
		原材料仕入額	55.6	62.8	63.0	81.3	67.7	6.3	-17.0	-1.9	7.6	-2.8	19.2	32.3
		製品販売価格	0.0	8.0	4.3	3.8	1.0	-19.8	-38.4	-38.7	-27.4	-31.4	-21.2	-23.5
	採算状況	-33.0	-48.3	-35.9	-54.2	-56.7	-63.2	-74.6	-63.6	-46.3	-31.5	-38.1	-33.7	
	前同 期 年比	資金繰り	-15.4	-25.0	-16.3	-27.1	-33.0	-37.2	-52.7	-45.3	-33.6	-28.0	-27.9	-21.4
		受注状況	-27.2	-5.7	-23.7	-38.7	-43.3	-67.5	-79.8	-69.2	-34.3	-29.9	-21.9	-10.9
		向こう3ヵ月の景況	-7.8	-24.4	-30.0	-34.3	-48.5	-77.0	-67.3	-38.3	-33.3	-30.6	-30.5	-5.0
	前同 期 年比	生産額	-18.5	-16.9	-26.1	-36.4	-34.0	-59.6	-80.5	-84.9	-72.9	-45.8	-13.3	-5.0
製品販売価格		-1.1	-1.1	7.7	4.7	2.1	-18.6	-47.3	-52.8	-46.7	-47.6	-29.8	-12.1	
設備投資額		-5.6	-5.9	-10.2	-19.2	-26.0	-43.2	-60.9	-64.1	-63.4	-46.6	-29.0	-20.6	
非 製 造 業	前期 比	売上額	-22.6	-25.2	-42.2	-40.3	-38.4	-52.7	-66.7	-47.9	-57.9	-43.5	-43.8	-45.7
		採算状況	-43.1	-46.9	-55.6	-57.0	-55.5	-66.4	-73.9	-60.0	-69.9	-54.4	-54.4	-54.3
		資金繰り	-29.8	-30.6	-37.3	-38.9	-43.2	-44.3	-56.3	-46.2	-50.4	-40.6	-41.5	-46.5
		向こう3ヵ月の景況	-34.1	-47.3	-54.1	-52.8	-60.0	-74.0	-67.4	-50.7	-51.9	-63.7	-46.3	-45.5
	前同 期 年比	売上額	-35.5	-34.7	-51.5	-35.7	-46.5	-60.3	-67.4	-71.7	-66.7	-66.4	-50.0	-54.4
		客数・販売先数	-35.2	-29.7	-47.3	-40.4	-41.1	-54.3	-60.2	-62.7	-64.0	-63.7	-47.5	-55.1
		設備投資額	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-37.4	-44.9	-62.2	-60.3	-55.5	-57.8	-47.0	-48.6

景気動向指標		'10年		'11年				'12年				'13年		
		Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	
製 造 業	前期 比	生産額	-12.4	-5.7	-3.2	-11.6	-2.4	-15.7	-16.1	-35.4	-40.2	-15.8	-20.2	-6.3
		出荷額	-9.6	-10.5	-2.2	-16.5	-4.8	-15.0	-12.0	-38.8	-41.7	-16.0	-20.4	-12.6
		製品在庫額	-3.0	-1.3	0.0	-14.1	-10.1	-11.5	-3.4	-7.3	-11.0	-1.1	1.1	-6.5
		原材料仕入額	18.3	32.6	37.4	39.8	35.7	19.5	28.3	9.3	-1.0	17.4	31.2	47.9
		製品販売価格	-18.8	-20.9	-8.7	-8.5	-10.8	-12.2	-20.9	-10.3	-22.3	-20.4	-16.3	-6.3
	採算状況	-32.4	-31.0	-23.4	-38.4	-30.6	-14.5	-31.5	-38.4	-36.7	-27.4	-26.9	-26.0	
	前同 期 年比	資金繰り	-24.3	-23.3	-10.8	-14.6	-19.3	-14.8	-19.8	-29.9	-16.7	-17.4	-9.8	-13.7
		受注状況	-13.3	-14.9	-6.5	-17.6	-22.4	-22.9	-22.6	-36.1	-41.8	-28.4	-28.7	-16.7
		向こう3ヵ月の景況	-28.8	-15.1	-43.6	-8.1	-20.5	-28.8	-18.7	-24.7	-37.5	-16.3	-8.8	-1.1
	前同 期 年比	生産額	5.7	10.3	11.8	2.3	-9.4	-6.1	-19.4	-31.3	-34.7	-29.5	-14.9	-16.5
製品販売価格		-24.8	-24.4	-18.0	-7.2	-13.3	-6.2	-13.3	-9.3	-24.0	-28.0	-15.1	-9.4	
設備投資額		-20.2	-16.0	-16.7	-13.3	-25.0	-35.0	-20.9	-22.1	-22.7	-25.8	-18.5	-21.9	
非 製 造 業	前期 比	売上額	-34.6	-24.8	-33.9	-29.4	-35.3	-24.3	-22.4	-30.6	-34.2	-33.9	-24.8	-23.0
		採算状況	-51.1	-49.6	-46.0	-55.1	-56.7	-41.7	-34.8	-44.6	-48.2	-40.9	-31.9	-35.4
		資金繰り	-40.9	-42.2	-38.2	-40.3	-47.5	-37.7	-26.1	-40.0	-37.8	-30.4	-27.4	-27.0
		向こう3ヵ月の景況	-48.1	-38.6	-51.3	-40.5	-37.0	-40.0	-36.8	-46.6	-46.3	-38.9	-16.1	-8.3
	前同 期 年比	売上額	-44.4	-37.0	-37.8	-35.6	-45.0	-36.3	-23.3	-30.3	-39.1	-38.9	-27.4	-22.3
		客数・販売先数	-42.7	-30.4	-37.6	-34.1	-48.9	-25.3	-27.2	-24.1	-39.2	-42.1	-27.7	-28.8
		設備投資額	-46.5	-35.8	-43.5	-45.1	-43.1	-31.5	-37.7	-29.1	-36.8	-38.2	-29.7	-22.9

1. 製造業の景気動向

①【生産額】

前期と比べた当期（2013年4～6月）の生産額は、増加25.0%、横這43.8%、減少31.3%となっている。総合D.Iはマイナス6.3Pである。業種別にみると、食料・飲料、繊維・衣服、一般機械は、D.Iがマイナスからプラスに転じている。その他の製造業は、D.Iのマイナス幅が縮小している。

前年同期比では、増加19.6%、横這44.3%、減少36.1%である。総合D.Iはマイナス16.5Pである。業種別にみると、飲料・食料、繊維・衣服、鉄鋼・非鉄金属、一般機械、電気機械は、増加と減少が拮抗している。紙・出版・印刷、その他の製造業は、減少が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。

表4. 生産額

業種	当期の生産額は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	57.1	14.3	28.6	28.6	7	28.6	42.9	28.6	0.0
	繊維・衣服	7	28.6	57.1	14.3	14.3	7	28.6	42.9	28.6	0.0
	木材・家具	1	100.0	0.0	0.0	100.0	1	100.0	0.0	0.0	100.0
	紙・出版・印刷	8	25.0	50.0	25.0	0.0	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
	化学・プラスチック	17	5.9	47.1	47.1	-41.2	17	0.0	52.9	47.1	-47.1
	鉄鋼・非鉄金属	8	37.5	37.5	25.0	12.5	8	25.0	50.0	25.0	0.0
	金属製品	17	17.6	41.2	41.2	-23.5	17	17.6	29.4	52.9	-35.3
	一般機械	13	30.8	46.2	23.1	7.7	14	28.6	42.9	28.6	0.0
	電気機械	7	42.9	42.9	14.3	28.6	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	その他の製造業	11	9.1	54.5	36.4	-27.3	11	27.3	27.3	45.5	-18.2
	製造業計	96	25.0	43.8	31.3	-6.3	97	19.6	44.3	36.1	-16.5

②【出荷額】

当期の出荷額は、増加23.2%、横這41.1%、減少35.8%となっている。総合D.Iはマイナス12.6Pである。業種別にみると、食料・飲料は、増加が増え、D.Iがマイナスからプラスに転じている。その他の製造業は、減少が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。

表5. 出荷額

業種	出荷額は					
	前期に比べ					D.I
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	57.1	14.3	28.6	28.6
	繊維・衣服	6	16.7	66.7	16.7	0.0
	木材・家具	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	8	25.0	50.0	25.0	0.0
	化学・プラスチック	17	5.9	47.1	47.1	-41.2
	鉄鋼・非鉄金属	8	50.0	25.0	25.0	25.0
	金属製品	17	17.6	35.3	47.1	-29.4
	一般機械	13	30.8	38.5	30.8	0.0
	電気機械	7	28.6	42.9	28.6	0.0
	その他の製造業	11	9.1	45.5	45.5	-36.4
	製造業計	95	23.2	41.1	35.8	-12.6

③【製品在庫額】

前期と比べた製品在庫額は、不足 3.3%、適正 87.0%、過剰 9.8%である。総合 D.I はマイナス 6.5P となっている。業種別にみると、食料・飲料、木材・家具、紙・出版・印刷、鉄鋼・非鉄金属は、全ての企業が適正である。繊維・衣服、電気機械は、不足がなくなり、D.I がプラスからマイナスになっている。

表6. 製品在庫額

業 種	在庫額は 前期に比べ					
	件数	不足	適正	過剰	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	0.0	100.0	0.0	0.0
	繊維・衣服	6	0.0	83.3	16.7	-16.7
	木材・家具	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	7	0.0	100.0	0.0	0.0
	化学・プラスチック	17	5.9	94.1	0.0	5.9
	鉄鋼・非鉄金属	8	0.0	100.0	0.0	0.0
	金属製品	17	11.8	70.6	17.6	-5.9
	一般機械	12	0.0	75.0	25.0	-25.0
	電気機械	6	0.0	83.3	16.7	-16.7
	その他の製造業	11	0.0	90.9	9.1	-9.1
	製造業計	92	3.3	87.0	9.8	-6.5

④【原材料仕入額】

前期と比べた原材料仕入額は、値上がり 47.9%、横這 52.1%、値下がり 0%である。総合 D.I はプラス 47.9P となっている。業種別にみると、食料・飲料、繊維・衣服、木材・家具、化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄金属、電気機械、その他の製造業は値上がりが増え、D.I のプラス幅が拡大している。

表7. 原材料仕入額

業 種	仕入額は 前期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	85.7	14.3	0.0	85.7
	繊維・衣服	6	83.3	16.7	0.0	83.3
	木材・家具	1	100.0	0.0	0.0	100.0
	紙・出版・印刷	8	50.0	50.0	0.0	50.0
	化学・プラスチック	17	47.1	52.9	0.0	47.1
	鉄鋼・非鉄金属	8	62.5	37.5	0.0	62.5
	金属製品	17	29.4	70.6	0.0	29.4
	一般機械	12	25.0	75.0	0.0	25.0
	電気機械	7	42.9	57.1	0.0	42.9
	その他の製造業	11	45.5	54.5	0.0	45.5
	製造業計	94	47.9	52.1	0.0	47.9

⑤【製品販売価格】

前期と比べた製品販売価格は、値上がり 6.3%、横這 81.1%、値下がり 12.6%である。総合 D.I はマイナス 6.3P となっている。業種別にみると、木材・家具、電気機械は、全ての企業が横這である。その他の製造業は、値上がりが増え、D.I がマイナスからプラスに転じている。

前年同期比では、値上がり 7.3%、横這 76.0%、値下がり 16.7%である。総合 D.I はマイナス 9.4P となっている。業種別にみると、鉄鋼・非鉄金属は値上がりと値下げが拮抗している。電気機械は、全ての企業が横這である。

表8. 製品販売価格

業種	当期の販売価格は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	14.3	57.1	28.6	-14.3	7	28.6	42.9	28.6	0.0
	繊維・衣服	6	33.3	50.0	16.7	16.7	6	16.7	66.7	16.7	0.0
	木材・家具	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	100.0	0.0	0.0	100.0
	紙・出版・印刷	8	0.0	62.5	37.5	-37.5	8	12.5	50.0	37.5	-25.0
	化学・プラスチック	17	0.0	94.1	5.9	-5.9	17	0.0	88.2	11.8	-11.8
	鉄鋼・非鉄金属	8	25.0	62.5	12.5	12.5	8	12.5	75.0	12.5	0.0
	金属製品	17	0.0	88.2	11.8	-11.8	17	0.0	88.2	11.8	-11.8
	一般機械	13	0.0	84.6	15.4	-15.4	14	0.0	78.6	21.4	-21.4
	電気機械	7	0.0	100.0	0.0	0.0	7	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他の製造業	11	9.1	90.9	0.0	9.1	11	9.1	72.7	18.2	-9.1
製造業計	95	6.3	81.1	12.6	-6.3	96	7.3	76.0	16.7	-9.4	

⑥【採算状況】

前期と比べた採算状況は、好転 10.4%、横這 53.1%、悪化 36.5%である。総合 D.I はマイナス 26.0P である。業種別によると、食料・飲料、一般機械は、前期 0 だった好転がみられ、D.I のマイナス幅が縮小している。繊維・衣服、紙・出版・印刷は、悪化が減り、D.I のマイナス幅が縮小している。

表9. 採算状況

業種	採算状況は 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	14.3	42.9	42.9	-28.6
	繊維・衣服	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
	木材・家具	1	0.0	0.0	100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	8	0.0	75.0	25.0	-25.0
	化学・プラスチック	17	0.0	58.8	41.2	-41.2
	鉄鋼・非鉄金属	8	25.0	50.0	25.0	0.0
	金属製品	17	5.9	52.9	41.2	-35.3
	一般機械	13	15.4	46.2	38.5	-23.1
	電気機械	7	28.6	57.1	14.3	14.3
	その他の製造業	11	9.1	45.5	45.5	-36.4
製造業計	96	10.4	53.1	36.5	-26.0	

⑦【資金繰り】

前期と比べた当期の資金繰りは、好転 8.4%、横這 69.5%、悪化 22.1%である。総合 D.I はマイナス 13.7P となっている。業種別にみると、食料・飲料は、好転と悪化が拮抗している。繊維・衣服、紙・出版・印刷は、悪化が減り、D.I のマイナス幅が縮小している。

表10. 資金繰り

業種	資金繰りは 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	繊維・衣服	6	16.7	33.3	50.0	-33.3
	木材・家具	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	8	0.0	87.5	12.5	-12.5
	化学・プラスチック	17	0.0	76.5	23.5	-23.5
	鉄鋼・非鉄金属	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
	金属製品	17	5.9	70.6	23.5	-17.6
	一般機械	13	23.1	46.2	30.8	-7.7
	電気機械	7	14.3	85.7	0.0	14.3
	その他の製造業	11	0.0	81.8	18.2	-18.2
製造業計	95	8.4	69.5	22.1	-13.7	

⑧【受注状況】

前期と比べた当期の受注状況は、増加 20.8%、横這 41.7%、減少 37.5%である。総合 D.I はマイナス 16.7P となっている。業種別にみると、食料・飲料、一般機械は、前期 0 だった増加がみられ、D.I がマイナスからプラスに転じている。紙・出版・印刷、化学・プラスチック、電気機械、その他の製造業は、減少が減り、D.I のマイナス幅が縮小している。

表11. 受注状況

業種	受注状況は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	57.1	14.3	28.6	28.6
	繊維・衣服	7	42.9	28.6	28.6	14.3
	木材・家具	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	8	12.5	50.0	37.5	-25.0
	化学・プラスチック	17	5.9	52.9	41.2	-35.3
	鉄鋼・非鉄金属	8	12.5	50.0	37.5	-25.0
	金属製品	17	17.6	47.1	35.3	-17.6
	一般機械	13	38.5	30.8	30.8	7.7
	電気機械	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
	その他の製造業	11	9.1	27.3	63.6	-54.5
製造業計	96	20.8	41.7	37.5	-16.7	

⑨【設備投資額】

前年同期と比べた当期の設備投資額は、増加 10.4%、横這 57.3%、減少 32.3%である。総合 D.I は、マイナス 21.9P となっている。業種別にみると、紙・出版・印刷、金属製品、一般機械、電気機械は、減少が減り、D.I のマイナス幅が縮小している。

表12. 設備投資額

業 種	設備投資額は 前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製	食料・飲料	7	0.0	85.7	14.3	-14.3
	繊維・衣服	6	0.0	33.3	66.7	-66.7
	木材・家具	1	0.0	100.0	0.0	0.0
造	紙・出版・印刷	8	0.0	87.5	12.5	-12.5
	化学・プラスチック	17	11.8	64.7	23.5	-11.8
	鉄鋼・非鉄金属	8	0.0	37.5	62.5	-62.5
業	金属製品	17	23.5	41.2	35.3	-11.8
	一般機械	14	21.4	42.9	35.7	-14.3
	電気機械	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
	その他の製造業	11	0.0	72.7	27.3	-27.3
	製造業計	96	10.4	57.3	32.3	-21.9

⑩【向こう3ヵ月の景況】

来期の景気見通しは、好転 18.9%、横這 61.1%、悪化 20.0%である。総合 D.I は、マイナス 1.1P となっている。業種別にみると、金属製品は、好転と悪化が拮抗している。紙・出版・印刷、その他の製造業は、好転企業がなくなり、D.I が 0 からマイナスになっている。

表13. 向こう3ヵ月の景況

業 種	向こう 3ヵ月の景況					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製	食料・飲料	7	14.3	42.9	42.9	-28.6
	繊維・衣服	7	14.3	85.7	0.0	14.3
	木材・家具	1	100.0	0.0	0.0	100.0
造	紙・出版・印刷	8	0.0	75.0	25.0	-25.0
	化学・プラスチック	17	11.8	58.8	29.4	-17.6
	鉄鋼・非鉄金属	7	0.0	85.7	14.3	-14.3
業	金属製品	17	23.5	52.9	23.5	0.0
	一般機械	14	35.7	57.1	7.1	28.6
	電気機械	7	57.1	28.6	14.3	42.9
	その他の製造業	10	0.0	80.0	20.0	-20.0
	製造業計	95	18.9	61.1	20.0	-1.1

2. 建設業の景気動向

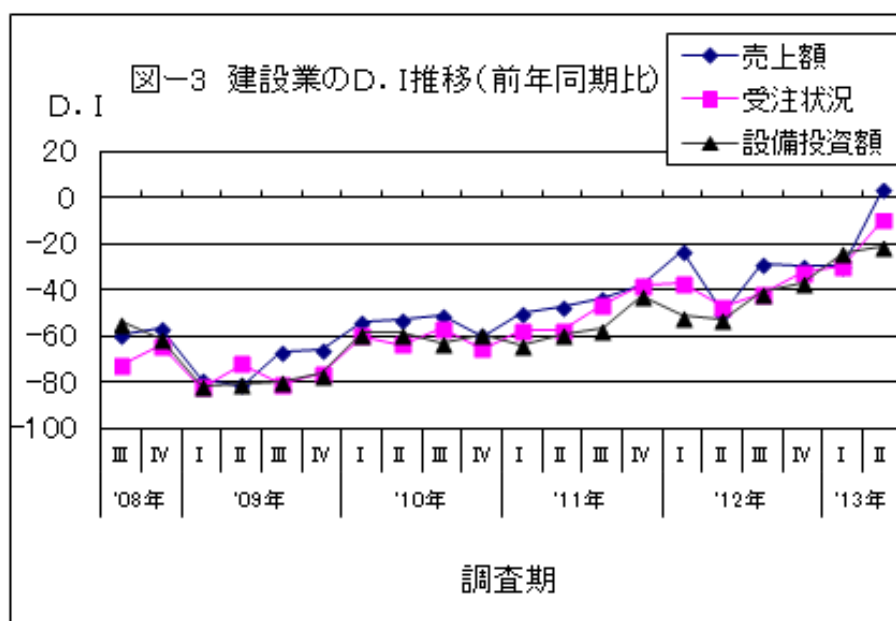
建設業の売上額は、減少が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。資材仕入価格、労務費は、値下がりがなくなり、D.Iが増加している。売上額、資金繰り、受注状況は、悪化が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。

向こう3カ月の景況感は、悪化が減り、D.Iがマイナスから0になっている。

表14. 建設業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	30	23.3	40.0	36.7	-13.3
	資材仕入価格	31	29.0	71.0	0.0	29.0
	労務費	30	23.3	76.7	0.0	23.3
	工事引合件数	31	32.3	38.7	29.0	3.2
	受注単価	31	3.2	71.0	25.8	-22.6
	採算状況	31	3.2	58.1	38.7	-35.5
	資金繰り	31	9.7	58.1	32.3	-22.6
	受注状況	29	27.6	37.9	34.5	-6.9
	向こう3カ月の景況	28	25.0	50.0	25.0	0.0
前年同期比	売上額	31	29.0	45.2	25.8	3.2
	受注状況	30	13.3	63.3	23.3	-10.0
	設備投資額	28	7.1	64.3	28.6	-21.4

前年同期比では、売上額は、減少が減り、D.Iがマイナスからプラスに転じている。設備投資額は、減少が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。



3. 卸売業の景気動向

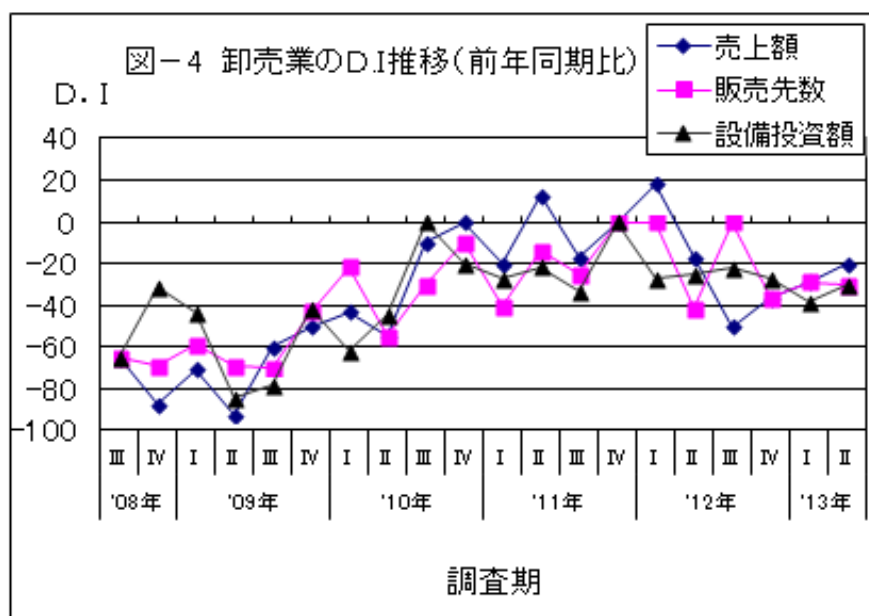
卸売業の売上額は、増加が減り、D.Iのマイナス幅が拡大している。客単価、商品販売価格は、値上がり企業がなくなった。商品仕入価格は、前期に引き続き値下がりがみられない。

向こう3カ月の景況感は、好転が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。

表15. 卸売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	11	9.1	36.4	54.5	-45.5
	販売先数	11	9.1	54.5	36.4	-27.3
	客単価	11	0.0	63.6	36.4	-36.4
	商品仕入価格	11	63.6	36.4	0.0	63.6
	商品在庫	11	0.0	63.6	36.4	-36.4
	商品販売価格	11	0.0	72.7	27.3	-27.3
	採算状況	11	0.0	54.5	45.5	-45.5
	資金繰り	11	0.0	63.6	36.4	-36.4
	荒利益率	11	0.0	36.4	63.6	-63.6
	向こう3カ月の景況	10	10.0	60.0	30.0	-20.0
前年同期比	売上額	10	30.0	20.0	50.0	-20.0
	販売先数	10	10.0	50.0	40.0	-30.0
	設備投資額	10	20.0	30.0	50.0	-30.0

前年同期比では、売上額は、前期に引き続き増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。設備投資額は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。



4. 小売業の景気動向

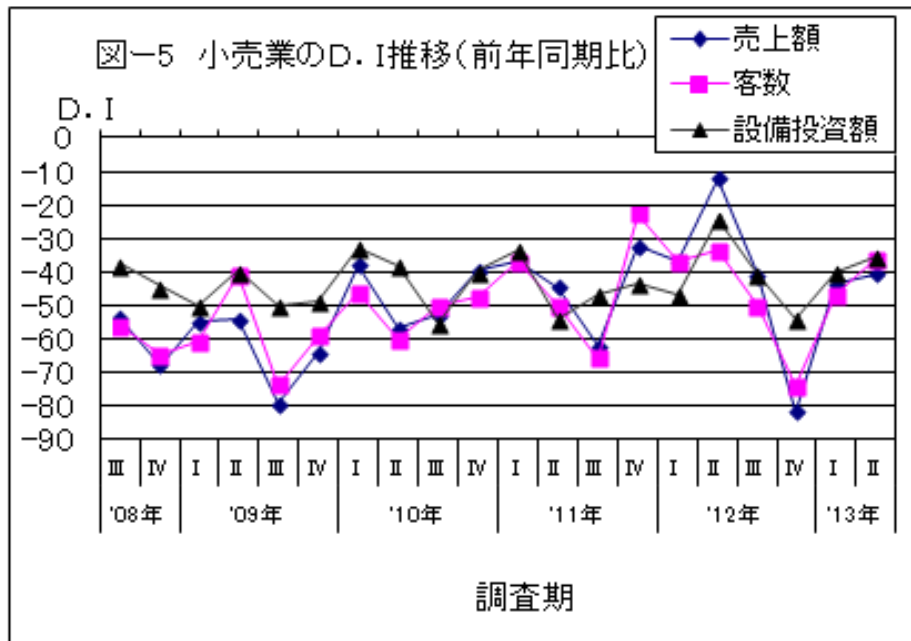
小売業の客単価は、値上がりが減り、D.Iのマイナス幅が拡大している。商品仕入価格の値上がりが増え、D.Iのプラス幅が拡大している。採算状況は、悪化が増え、D.Iのマイナス幅が拡大している。

向こう3カ月の景況感は、好転が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。

表16. 小売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	37	13.5	40.5	45.9	-32.4
	客数	37	13.5	37.8	48.6	-35.1
	客単価	37	5.4	54.1	40.5	-35.1
	商品仕入価格	36	25.0	69.4	5.6	19.4
	商品在庫	36	2.8	72.2	25.0	-22.2
	商品販売価格	36	13.9	63.9	22.2	-8.3
	採算状況	37	5.4	40.5	54.1	-48.6
	資金繰り	35	2.9	62.9	34.3	-31.4
	荒利益率	37	2.7	54.1	43.2	-40.5
	向こう3カ月の景況	36	11.1	63.9	25.0	-13.9
前年同期比	売上額	37	18.9	21.6	59.5	-40.5
	客数	36	19.4	25.0	55.6	-36.1
	設備投資額	34	5.9	52.9	41.2	-35.3

前年同期比では、客数は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。設備投資額は前期に引き続き減少が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。



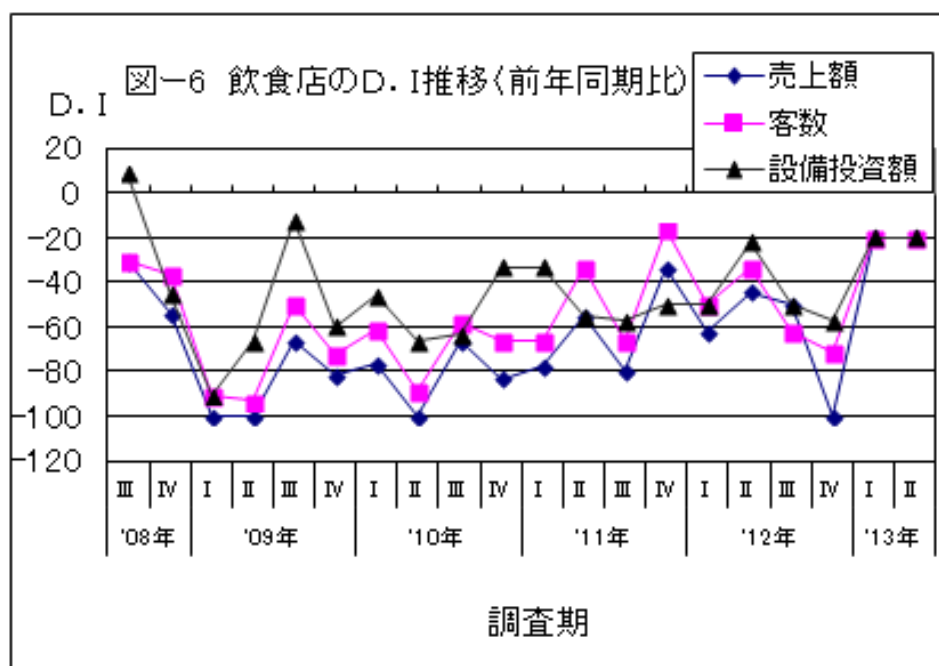
5. 飲食店の景気動向

飲食店の売上額、客数、客単価、採算状況、資金繰り、荒利益率、向こう3ヵ月の景況は、全て前期と同様の結果となった。

表17. 飲食店の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	10	20.0	30.0	50.0	-30.0
	客数	10	20.0	40.0	40.0	-20.0
	客単価	10	10.0	40.0	50.0	-40.0
	採算状況	10	10.0	30.0	60.0	-50.0
	資金繰り	10	10.0	40.0	50.0	-40.0
	荒利益率	10	20.0	20.0	60.0	-40.0
	向こう3ヵ月の景況	9	22.2	33.3	44.4	-22.2
前年同期比	売上額	10	30.0	20.0	50.0	-20.0
	客数	10	30.0	20.0	50.0	-20.0
	設備投資額	10	30.0	20.0	50.0	-20.0

前年同期比では、売上額、客数、設備投資額は、全て前期と同様の結果となった。



6. サービス業の景気動向

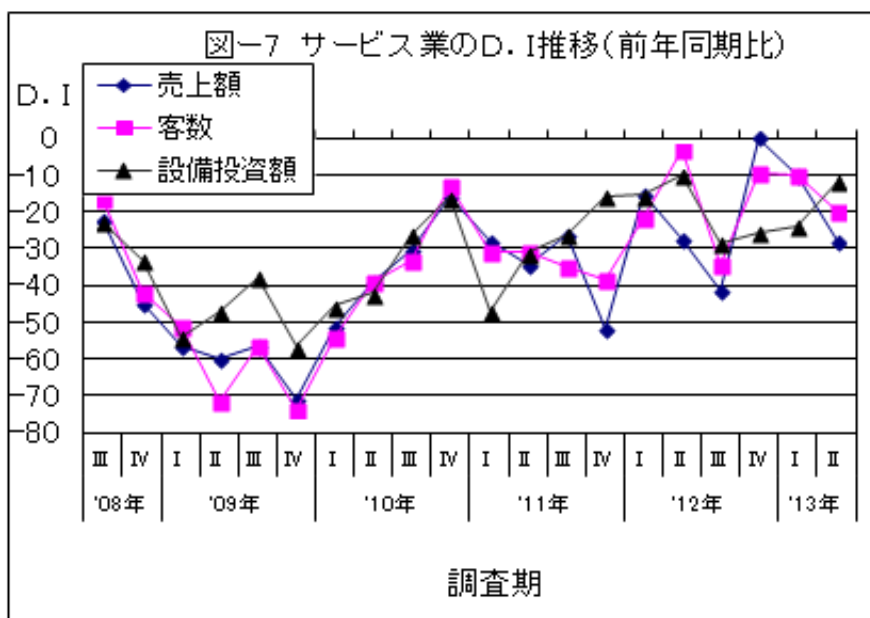
サービス業の売上額と客数は、増加が減り、D. I のマイナス幅が拡大している。資金繰りは横這が7割以上を占めている。荒利益率は好転が増え、D. I のマイナス幅が縮小している。

向こう3ヵ月の景況感は、悪化が増え、D. I がプラスからマイナスに転じている。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標		事業所数	増加	横這	減少	D. I
			不足	適正	過剰	
			値上	横這	値下	
			好転	横這	悪化	
前期比	売上額	26	23.1	46.2	30.8	-7.7
	客数	26	26.9	46.2	26.9	0.0
	客単価	26	15.4	61.5	23.1	-7.7
	採算状況	26	19.2	53.8	26.9	-7.7
	資金繰り	26	11.5	61.5	26.9	-15.4
	荒利益率	26	15.4	50.0	34.6	-19.2
	向こう3ヵ月の景況	26	15.4	65.4	19.2	-3.8
前年同期比	売上額	25	16.0	40.0	44.0	-28.0
	客数	25	16.0	48.0	36.0	-20.0
	設備投資額	25	12.0	64.0	24.0	-12.0

前年同期比では、売上額、客数は、減少が増え、D. I のマイナス幅が拡大している。設備投資額は減少が減り、D. I のマイナス幅が縮小している。



枚方市の当期の特徴

- ・ 製造業は、前期に引き続き原材料仕入額の値上がりが見られる。
- ・ 非製造業の前年同期比では、建設業、卸売業、小売業、は全ての項目において改善が見られる。

自由意見

業種名	規模	自由意見
総合工事業	C	見積書作成件数が多くなった。
		テレビマスコミでアベノミクスの良い面ばかり報道するので我々小企業はやりにくいです(ボーナス含めて)
設備工事業	B	世間ではアベノミクスと騒いでいるが私の周りでは逆に単価を下げられ、目先が暗くこのまま行けば解散か？と危惧しています。
衣服・その他繊維製造業	A	気のせいかわアベノミクス以来、車の量、スーパーなどの人出が多く感じます。今期も私のところは増加しています。このまま安定を願っています。
	C	受注と生産の距離が短く、受注数量も激減している(特に大阪商買) 関東の方は元気!
金属製品製造業	C	受注状況は増加傾向にあるが人員が不足目標生産数に達していないのが現状である。
	F	このまま行けば・・・もって数年ぐらい!! 法人税減税なんて大企業向け!! それよりも所得税と住民税を減税し公務員4割減と2割賃金カットしモノの値上げを!!
一般機械器具製造業	D	期待して待つのみ
	F	中小企業にはアベノミクスは何も関係なく不景気のままです。
電気機械器具製造業	C	とにかくアンテナを広げて企画段階から提案を連発して参入する。我々はそのお手伝いをして仕事に繋げる。みんなちゃんと種まきしているか! ○○ノミクス風をつかまえろ
	E	受注案件は増加傾向にあるも確定受注にはまだまだ慎重である。
その他の製造業	B	大阪府の公共投資への積極的な拡大を望みます。
	E	通貨供給量の増加が我々の産業に及ぶのはいつのことか。もっと着実に有効需要の増加を生む政策が必要である。
飲食料品卸売業	E	円安になり、良くないというより全てダメに近い。小企業はアベノリスクが大きい。
各種商品小売業	G	1品単価を下げて買上げ点数をUPさせる方向性。しかしながら客数横這いで荒利率がダウンしている。営業利益が前年割れと厳しい状況です。
織物・衣服・身の回り品小売業	B	厳しい状況で、お客様の買い控えなどで客数が減って困っております。
飲食料品小売業	B	あまり良くない。
	C	労働者の所得増はかなり難しそう。
家具・建具・じゅう器小売業	B	丸3年が経過して、少しずつやっと上向き始めたが、採算はまだまだ厳しいのが現実である。
	D	消費動向が悪い。
その他の小売業	B	業種の転換をせねばと思っています。物流が変わって定着、格差拡大。しかし日本はいい国です。がんばれ日本! 私も頑張る。

		円安のため採算悪し。
		行政上必要な設備投資ができるか閉店かの瀬戸際です。
洗濯・理容・浴場業	C	周りの飲食（居酒屋）が次々閉店していき、残りは何処行っても同じ大手チェーンのみ。
物品賃貸業	B	消費は10%にして頂いてそのかわり所得税減税をして頂いた方は公平だと思います。
専門サービス業	D	会費改定により売上はアップしたが、期待に応えられるよう努力していく。
その他の事業サービス業	F	価格競争の激化（受注の為の）は絶望的です。

規模区分 A = 1～3人、B = 4～9人、C = 10～19人、D = 20～29人、
E = 30～49人、F = 50～99人、G = 100人以上